京都大学防災研究所年報 第 62 号 A
DPRI Annuals, No. 62 A, 2019

# 特定研究集会（ 課題番号 ： 30C-1）

集会名： 第４回世界防災研究所サミット
研究代表者： 多々納裕一
開催日：平成 30 年 3 月 12 日 ～ 15 日
開催場所： 京都大学宇治キャンパス きはだホール他
参加者数： ２４６名（所外 155 名、所内 91 名）
・大学院生の参加状況： 25 名
・大学院生の参加形態 ［ 研究発表 ］

研究及び教育への波及効果について

| |
|---|
| 16 件の基調講演をはじめ、５２件のポスター発表、グループ討議、パネル討議等を通じて、２０１７-１８年に発生した災害からの教訓や課題の共有化、仙台防災枠組みと国際機関や各国機関からの取り組みの紹介に加えて、今後目指すべき研究・教育の方向性に関して、有意義な議論を行うことができた。海外からの学生の参加も多く、本研究所の学生にとっても、大変良い刺激になったものと自負している。 |

研究集会報告

(1) 目的

第４回世界防災研究所サミットでは、以下の３つの目的を設定し、会議を開催した。

① 防災をめぐる重要な諸課題に関する議論と科学技術ロードマップの作成
② 2015 年 3 月の仙台防災枠組み以降の防災研究関連分野における世界や国内の動きの共有化
③ 各国機関での取り組み状況や研究成果の共有化

(2)成果のまとめ

①に関しては、グループ討議を中心として方向性を取りまとめ、ここでのインプットを 2019 年 5 月にスイスで開催されるグローバルプラットフォーム 2019 にて共有化することになった。②に関しては、16 件の基調講演を行い、仙台防災枠組みと国際機関や各国機関からの取り組みの紹介に加えて、GADRI が今後目指すべき方向性に関して、多くの示唆をいただいた。③に関しては、北アメリカ主体、アフリカ主体、及びイギリス主体の世界防災研究所連合での活動報告や、52 件のポスター発表がなされ、活発な意見交換と研究成果の共有化がなされた。

今回の会議前（2019 年 2 月末）の時点で 45 の国・地域、172 機関の参加を得るまでに成長し，国連防災戦略が設置した科学技術アドバイザリグループにも防災研究所からはもちろんのこと，他の加盟機関を加えれば複数のメンバーが選出されるなど，国際的な認知を得るまでに至っている。会議開催中にも、いくつかの機関から新たに参加の表明があり、防災分野において重要な位置を占めうる学術研究機関の連合体として成長してきた。このこと自体きわめて大きな成果であると考える。また、会議の開催中から、京都大学防災研究所が果たしたリーダーシップと GADRI の運営に関して身に余る賞賛と期待が寄せられており、会議自体大成功であったと考えている。特に、①グループ討議を通じて各研究分野で取り組むべき短期的・長期的課題が明確化されたこと，②各国機関が科学技術ロードマップに盛り込まれた課題の取り組み状況や成果，課題などを持ち寄り，世界防災研究所連合（GADRI）が 2 年に一度実施する世界防災研究所サミットの場で取り組み状況の確認と課題を継続的に討議することに関して合意を得たことは、大変大きな成果であった。

(3)プログラム

http://gadri.net/summit/program/

(4)研究成果の公表

会議中に用いられたパワーポイント等の資料は、原則 Web で公開するとともに、基調講演や優秀なポスター発表に関しては、スプリンガー社から刊行している GADRI Book シリーズの一環として、プロシーディングスを出版する予定である。